

# チェルノブイリ通信

2003年2月24日

No. 55

発行 チェルノブイリ支援運動・九州 事務局

連絡先 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内

TEL・FAX 093-203-5282

E-mail jimmu@cher9.to

URL <http://www.cher9.to/>

郵便振込口座 01770-1-65328 チェルノブイリ支援運動・九州



\*第3回ベラルーシ共和国プレスト市検診報告

\*チェルノブイリ支援運動・九州、事務局日誌

\*雪だるま2号キャンペーン

\*工房・のぞみ21の新しい作品

\*映画「アレクセイと泉」上映会のご案内

\*総会のご案内

# チェルノブイリと甲状腺ガン

## 第2回ブレスト検診報告から

1986年に起きたチェルノブイリ原発事故により、大気中へと放出された放射性ヨウ素は、事故当初、まず子どもたちの甲状腺にガンを引き起こした。

その後、16年の月日が過ぎ、今、その被害は思春期（16歳から18歳）の世代に及ぼうとしている。

文／チェルノブイリ支援運動・九州 矢野 宏和



ベラルーシの医師とともに検診を行う武市宣雄医師（広島甲状腺武市クリニック院長）

放射能と甲状腺の問題に関わり続ける

武市宣雄医師の姿から見えてくること

冬のベラルーシ共和国

白一色の世界

「まさに、何にもないね」武市宣雄医師は、「雪だるま号」の車窓を見つめながら、そう呟いた。確かに、十二月のベラルーシ共和国の大地には、容赦なく雪が吹きつけ、地平線を覆う空も大地もすべて白く塗りつぶされている。

私たちが検診を行うブレスト内分泌診療所の窓から見える風景もまた、白、一色だった。

第2回ブレスト市

甲状腺ガン検診

ベラルーシ共和国、ブレスト州の州都、ブレスト市。そこで行われる甲状腺ガンの検診は今回で3回目になる。

一九九六年から同州のストーリーリン地区で行われている検診を含めれば、足かけ7年、11回目の検診ということにな



小学校での検診も行われた

る。その間、武市医師は毎年、1度は必ずチェルノブイリ支援運動・九州の検診に参加し、その他にもカザフスタン、ウクライナといった放射能の汚染地で検診を行う。

1度に検診で要する時間はおよそ2週間。広島で「甲状腺クリニック」を

開業しながら、こうした武市医師の取り組みに、畏敬の念を抱く人は多い。

チェルノブイリ原発事故が起きてから16年の歳月が過ぎ、人々の記憶からあの事故が消えさられようとしている今、これだけ長期に渡って、しかも膨大な時間と労力をかけて、放射能と甲状腺の問題を追求できるのは、何故だ

らう。これまで、活動を共にするなかで、いつも私はそのパワーの源について想いを巡らせていた。

チェルノブイリと

広島の間わり

それはやはり、原爆を投下された町、広島で、武市医師が生まれ育ったという背景が関係しているのだろうか。し

かし、原爆が投下されたのは、チェルノブイリ原発事故よりもっと昔のこと。広島島の原爆とチェルノブイリは、そんなに関係することもないかもしれない。

そんな疑問を、直接、武市医師に伝えてみた。いつも私の拙い質問に丁寧な答えてくれる武市先生は、この時も一つひとつ分かりやすく説明してくれた。「広島では原爆からすでに57年が経過しました。それにも関わらず、私は今でも原爆被爆者の甲状腺ガンの診察を続けています。甲状腺ガンの最多発生（手術）年齢は普通は40歳から50歳代の方です。だから、原爆時に乳幼児だった広島・長崎の子どもたちは、今でも甲状腺ガンの好発年齢の中にまだいるということですよ。」

「57年の歳月を経てなお、放射能の危険は残っている」ということなのだ。それだけ放射能の脅威とは長期に及ぶ。では、事故後、まだ16年しか過ぎていないチェルノブイリがもたらす危険性とは、どんなものなのだろうか？

甲状腺という窓から

チェルノブイリを見れば

武市医師の話は続く。甲状腺という窓からチェルノブイリを考えると、事故から16年が過ぎる今の時期こそ、甲状腺ガンの危険性が高まることが分かる。

「甲状腺の成長は、およそ19歳まで続

きます。そして思春期を迎えた14歳から16歳の女の子の甲状腺は、この時期に最も早く成長腫大し、その為思春期甲状腺腫」という名がつけられてもいます。

甲状腺がこの時期に急速に肥大し、それまで小さかった微小ガンが、首をさわって発見されるような臨床ガンになることが多いというのが私の考えです。チェルノブイリ事故から16年を過ぎて、この16歳から19歳のハイティーンの子どもたちが、甲状腺ガンが増加する時期に入ってきます。」

そして……。

この度の検診では、この武市医師の説明を裏付けるかのように、16歳の女の子の甲状腺にガンが発見された。この女の子は、ブレスト州にあるピリョーザ市に住んでおり、チェルノブイリ原発事故当時もそこに住んでいた。

彼女が生まれたのは、一九八六年四月二十三日。つまり、チェルノブイリ原発事故が起こる3日前のこと。

だから、武市医師は彼女のことを、こう表現する。「誕生3日後の被災者」と。



検診に参加したくろつち整形外科クリニックの看護婦、有賀さん

## 過酷な検診活動

### 医師の大変さ

甲状腺ガンの検診の目的は、甲状腺に潜むガン細胞を発見することである。そのためには、超音波診断装置の画面に映し出される甲状腺を凝視し、疑いのある患部を発見し、その部分の細胞を吸引穿刺により摘出しなければならない。

画面に映るそれほど鮮明とも思えない映像を、武市医師は長時間に渡り見続ける。それだけでも多くの労力を要し、しかも吸引穿刺においては集中力

を必要とする。検診が終盤に差し掛かる頃、武市医師の疲労もピークに達しているようだった。

休憩時間、武市医師の肩を私がマッサージしてみると、まるで鉄の固まりが首筋から肩に埋め込まれたかのようだった。

改めて、私はこの検診活動における医師が果たす役割に、そして、これからも現地を訪れ続けるであろう武市医師の姿に、畏敬の念を覚えた。

### これから起こりうる問題

これからベラルーシでは、事故当時、0歳から5歳だった子どもが、今、16歳から20歳へと年齢を重ね、結婚・出産時期に入る。子どもから大人へと身体が変化していくこの時期、人間の成長に必要なホルモンを分泌する甲状腺という器官は、重要な役割を果たす。

問題なのは、そうした年齢層の甲状腺に、今後、ガンが多発する可能性があるということなのだ。

武市医師は広島原爆とチェルノブイリ原発事故の被爆者を比較してこう説明する。

「広島原爆被爆者も被爆時年齢が

若かった方ほど甲状腺ガンの発生率が高くなっています。乳児期は、放射線の感受性が最も高く、放射能の影響を受けやすい時期なのです。広島では、中性子線やコバルト60ガンマー線が主として甲状腺を傷つけましたがチェルノブイリでは、放射性ヨードが主なものでした。チェルノブイリ原発当時に生まれた乳幼児たちは、母乳を通して高濃度になった放射性ヨードを飲んで、これが甲状腺に取り込まれたので

す」  
地上に生を受けて、初めて口にする母乳。その母乳を通して、甲状腺ガン

の原因となる放射性ヨードを取り込んだ乳幼児たちが、これから結婚、出産の時期を迎えようとしている。「この人たちの結婚、育児を考えると、私達も何かしなくてはと思うのが当然ではないでしょうか。」

ごく自然に語る武市先生の言葉に、私は深く頷くしかなかった。

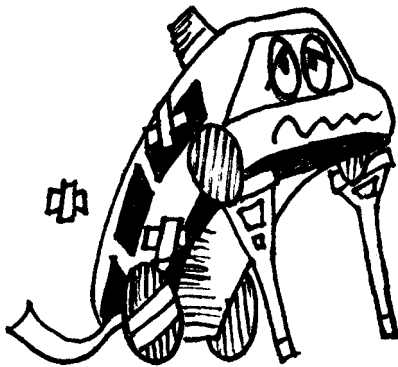


検診が終わった後も顕微鏡で細胞を診察する武市医師

## 雪だるま2号キャンペーン

# 新しい雪だるま号を購入するための 支援をお願いします

## 雪だるま号は今、



これまで7年間に渡ってベラルーシでの検診活動を支えてきた「雪だるま号」。医療チームの移動だけでなく、現地の患者さんの交通手段、またチェルノブイリ支援に取り組む日本の方々の活動を支えてきた「雪だるま号」。

舗装されていないでこぼこ道、冬の凍てついた道路を、たくさんの人、荷物を積んで走り続けた結果、今や故障が頻繁に起こり、ボロボロの状態になってしまいました。

もはや修理の施しようのない状態になりつつあり、このままでは今年の検診にも支障をきたす恐れがあります。

そこで、チェルノブイリ支援運動・九州では、今年中に雪だるま2号を購入することにしました。しかし、そのためには、300万円の費用を必要とします。

現在、「雪だるま2号キャンペーン」を展開し、今年の秋には「雪だるま2号」を購入したいと思います。皆様のご理解とご協力を心からお願い致します。



7年間走り続けて、今やボロボロの雪だるま号

# 目標金額 300万円

雪だるま2号へのカンパはこちらまで

郵便振込口座 01770-1-65328 チェルノブイリ支援運動・九州

「雪だるま2号カンパ」とご記入ください。

## 映画「アレクセイと泉」の上映会 それを思いつくまで



つながることの楽しさから芽生えた想い

できるだけ、たくさんの人にこの映画を伝えたい。

「アレクセイと泉」。チェルノブイリ原発事故で、放射能に汚染されたベラルーシ共和国を舞台にした映画だ。

私が事務局長を務めるチェルノブイリ支援運動・九州の事務局へは、すでに何ヶ月も前から「アレクセイと泉」を上映する予定はないのですか？」という問い合わせが何件か来ていた。しかし、まだチェルノブイリ支援に関わりはじめて2年も経たない未熟な身でありながら事務局を一人で務めているわたしには、自主上映会を企画する余裕などなかった。原発事故から16年以上経つ今でも継続・安定した支援の必要が増してきているベラルーシへの医療支援活動を維持するために、毎日の業務に追われていたのだ。

いまだに旧ソ連の体制を残すベラルーシへは、大量の医療支援物資を届けることが容易ではなく、厳しい審査や手続きが必要となる。しかも、医療の専



谷口 恵

門的なことに関してわからないことだらけ。本当に必要な支援を見極めるのはたくさんの手間と時間がかかる。毎日、自分の無力さと孤独感との闘い。それに加えて上映会をするだけの自信などなかった。

しかし、実際に映画を観てからというもの、わたしの中に「アレクセイと泉」はどっしりと根をはった。大地にしっかりと両足をつけて暮らしているブジシチエ村の人たちと同じように。「上映できたらいいな。たくさんの人たちに観てもらいたいな...」ちよ



ちよる湧き出した想いは、まるで泉を満たす水のように心の中にとどまっていた。

そんな中、「上映することがあれば連絡ください」と声をかけてくれた女性が行きますから」という意味だったのかも知れないが、なぜか都合よくも、し誰も協力者がいなくても、この人だけは一緒にやってくれるだろう」と直

感じ、もらった名刺を大切にしまいこんだ。この出会いは、この映画の上映が多くの人をつなげるであろうということをつシギと予感させた。

そして、ふと思いついたのが、映画の中でごつごつした手のおじいさんが言っていた言葉。

「なんとかなるさ。はじめることが大事だよ。そうすれば、終わる。」

それが、上映会実現への踏ん切りとなった。

わたしは、上映会実現への想いを周りの人たちに思い切って話しはじめた。すると、あちこちの泉からわたしのほうへ水が流れこみ出した。セヴァン・スズキを迎えるイベントで遠賀川の汚染に取り組む人たちのスピーチがすばらしかったこと、三月には関西地方で「世界水フォーラム」が開かれること、それにむけての連続学習会が福岡でも予定されていること、上映会をできそうな会場のこと、これまでに上映会をした人たちの体験談…それら

すべてが、つながりはじめたのだ。

…決めた。

「水といのち」をテーマにしたイベントにしよう。映画の話はただの遠い国の汚染地の話ではない。参加する人ひとりひとりが、自分の身のまわりから、からだの中に流れる水を見つめなおすような、小さなきっかけをつくる。そして、「本当の豊かさとは何か？」という問いかけに向かい合おう。

こうして今、着々と準備がすすんでいる。「上映する会」の参加メンバーは、

ただ上映会の準備をするだけでなく、水の学習会やチェルノブイリについて知る機会をつくったり、ほかの上映会や映画愛好者と話しをしに行ったり、水を訪ねるツアーを企画したり、自らイベントのことを知ってもらうために公共の場所へ足を運んだり、楽しみながら「水といのち」について深めている。

それぞれのメンバーがそれぞれの興味で自主的に活動しているので、「つながり」はまだまだ枝葉を広げそうだ。

そして、イベント当日にそのつながりは一気に流れ出すのだろう。それは、来場者へむかっただけの流れた。映画を観るといっなのは元々観客にとって受

身的な行為だ。しかし、この泉の水が観る人の心に流れこみ、それぞれの人の手足や身体全体にも伝われば、そこからまたつながっていくのだと思う。手足や身体全体を道具にして水や大地とつながっているプジシチエ村の人たちのように、それを思うとわくわくする。わたしの心と身体にもどうやら泉の水は流れてきていたらしい。このイベントの実現へと、今まさに突き動かされているのだから。

## 連絡先

チェルノブイリ支援運動・九州  
福岡県遠賀郡水巻町下二西 3-7-16  
☎ 093-203-5282  
Eメール event@cher9.to

# —上映会のご案内—

## 水とともに生きる「アレクセイと泉」 ～水といのちのおはなし

チェルノブイリ、ベラルーシ、いのちの物語。

舞台となる〈泉〉は、1986年4月26日に起こったチェルノブイリ原発の爆発事故で被災したベラルーシ共和国東南部にある小さな村ブジシチェにある。この村の学校跡からも、畑からも、森からも、採集されるキノコからも放射能が検出されるが、フシギなことに、この〈泉〉の水からは検出されない。「なぜって？ それは百年前の水だからさ」と村人たちは自慢そうに答える。この百年、人間は何の豊かさを求めてきたのだろう。《水の惑星＝地球》の強い意志のようにこんこんと湧く〈泉〉は、私たちに”本当の豊かさとは何か”を静謐に語りかける。

監督 本橋 成一

音楽 坂本 龍一

## 水について考える

わたしたちのいのちをつないでいる「水」のこと、知っていますか？ 昨年12月24日に行われた福岡県・福岡市・北九州市との会談では、遠賀川の水を福岡都市圏に供給する構想を進めることが合意されました。汚染度が九州ワースト1の遠賀川の現状から、わたしたちの生活の中に流れる「水」を見つめます。

### 水のはなし ～遠賀川の現状から

- ❖1 LOVE 遠賀川流域交流会デポジット法制化を求める事務局 事務局長 妹川 征男 さん
- ❖21 世紀環境人権ネットワーク 原中 誠志 さん

場 所：福岡市立少年科学文化会館ホール

福岡市中央区舞鶴2丁目5番27号 TEL 092-771-8861 FAX 092-771-8863

(駐車場はありませんので公共の交通機関等をご利用下さい)

日 時：2003年3月30日(日)

11:00～ 上映1回目

12:50～ ・「アレクセイと泉」背景のはなし ～チェルノブイリ事故とベラルーシの今  
・水のはなし ～遠賀川の現状から

14:10～ 上映2回目

(入退室自由)

当 日：一般 1000円 中高生 600円 小学生以下 無料

前 売 り： 800円 600円

前売り券の取扱は、福岡ビル1Fプレイガイド、福岡YWCA、もしくは、下記問い合わせ先まで

主 催：「アレクセイと泉」を上映する会

共 催：チェルノブイリ支援運動・九州、インターユースふくおか

後 援：福岡県、福岡市、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、(財)福岡県国際交流センター、(財)福岡国際交流協会、  
(財)北九州国際交流協会、読売新聞社、毎日新聞社、共同通信社、朝日新聞社、西日本新聞社、NHK福岡放送局、  
TNCテレビ西日本、TVQ九州放送、FBS福岡放送、九州毎日放送、RKB毎日放送、LOVE FM、FM福岡、クロスFM、  
FREE WAVE TENJINFM、グリーンコープ福岡・北九州

賛 同：福岡YWCA、(株)ウインドファーム、たんぼぼとりで、くらし共創ネットワーク、ユース・ウォーター・ジャパン福岡、  
NGO福岡ネットワーク、日本グルントヴィ協会、WOW! JAPAN、市民団体webネットワーク

助 成：(財)福岡県国際交流センター

問い合わせ：「アレクセイと泉」を上映する会 谷口 恵

〒807-0052福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16 ウインドファーム内

チェルノブイリ支援運動・九州気付 TEL/FAX：093-203-5282 E-mail：event@cher9.to



## 新しい民芸品、入荷しました!!



工房・のぞみ21の新しい作品が届きました。可愛いマトリョーシカやおしゃれな洋服などたくさん取りよせています。

工房・のぞみ21のスタッフたち  
工房では、チェルノブイリの被害を受け、甲状腺の手術の受けた人や、身体に障害を持った人が、真剣な表情で作品を作っています。



工房のスタッフたち



マトリョーシカの作成



洋服を作るスタッフ

### 作品に関する詳しい情報は……

★チェルノブイリ支援運動・九州のホームページ <http://www.cher9.to/mingei/> でご覧になれます。

★福岡YWCA内のフェアトレードショップ“ダブルピース”でも取り扱っています。  
<http://www.ywca.or.jp/fukuoka/index.html>

★全国で行われる各種イベント・バザーにて販売しています。

★のぞみ21の作品を扱いたいというご希望もありましたらチェルノブイリ支援運動・九州まで寄せ下さい。

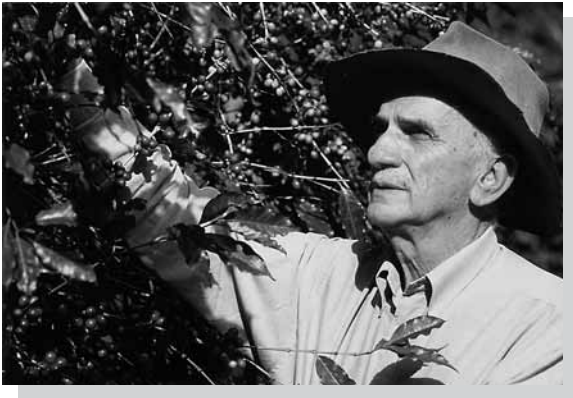
おいしいコーヒーを飲むことで、ベラルーシの人達を支えることができます。

# 有機無農薬栽培の 風味と味わいを楽しんでみませんか



一度、飲んでみませんか？

カルロスさんがブラジルで育む  
有機無農薬 ジャカランダコーヒー



チェルノブイリ支援コーヒーとして販売されるジャカランダコーヒーは、ブラジルで農薬や化学肥料を一切使わずに育まれた有機栽培のコーヒーです。

自然や人を大切にしたいという想いから、コーヒーの有機栽培に取り組み始めたカルロスさんですが、チェルノブイリ原発事故についても「同じ地球に住む人間の問題」として積極的に関わり、作文集「私たちの涙で雪だるまが溶けた」のポルトガル語版の作成においても、惜しみない協力を頂いております。

## チェルノブイリ支援コーヒー(粉)(豆)

(有機無農薬ジャカランダ農場産・200g)

775 円

※注文の際に粉か豆かをご指定下さい

## チェルノブイリ支援紅茶

(有機無農薬南インド紅茶・100g)

485 円



5 パック未満のご注文は送料 200 円

合計注文数が 5 パック以上の場合には送料無料

売り上げの一部がチェルノブイリ支援へのカンパとなります。

コーヒー・紅茶に関するお問い合わせは、チェルノブイリ支援運動事務所まで

電話 / 093 - 203 - 5282

# チェルノブイリ支援運動・九州 第13回総会のおしらせ

会員のみならずと運営委員が、共にわたしたちの活動を見つめ、あり方を確認しあう機会です。

また今回は、簡単なベラルーシ料理もご用意する予定です。会のはじまる1時間半ほど前(12:30頃)にお越しただければご試食いただけますので、試食会からご参加いただける方は、事前に事務局までご連絡をお願いします。

みなさんと顔を合わせて生のご意見をうかがえるのは、チェルノブイリ支援運動・九州の活動にとって重要な機会となります。ぜひご参加下さい。

日時：3月9日(日) 14:00～

場所：ウインドファーム

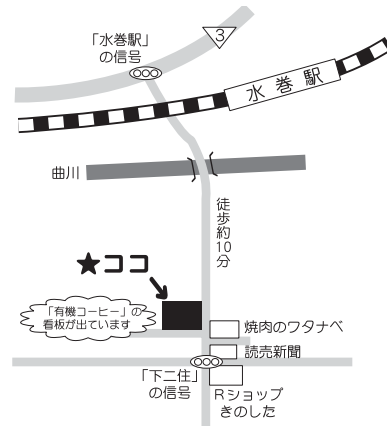
遠賀郡水巻町下二西3-7-16

(JR鹿児島本線水巻駅から徒歩10分)

内容：2002年度活動報告

2003年度の取り組み

運営体制、予算・決算報告



説明する谷口さん

## 出張勉強会・報告会、随時、行っています

昨年の十月十九日、二十日に、福岡県青松高校の総合学習の時間を利用して、チェルノブイリ支援運動・九州の津島朋憲、谷口恵によるチェルノブイリをテーマにした勉強会が行われた。当日は、生徒ともに先生方も参加。その後、次のような感想が寄せられている。

当時の風向きでベラルーシに放射能が流れたため、ベラルーシが放射能の被害を受けたという事故後の放射能被害の様子がよくわかりました。なぜチェルノブイリ原発のあるウクライナではなくベラルーシで支援活動をしているのかということや、放射性ヨウ素の被害により、こどもたちに甲状腺ガンが多発し、医療器具の不足しているなかで、支援活動を始めたことがわかりました。

また、甲状腺を摘出するか、しないかという判断が難しいということ。当初の現地医療において、摘出した後にガンが発見されず良性だったとわかり、摘出しなくてもよかったとわかった女性のお話は心に残りました。そのため、一生涯を飲み続けなければならぬなんて、日本にも被爆者がいるのになぜベラルーシにわざわざ行くのかと聞いた人がいたそうですが、そう批判する人の気持ちがわかりません。今すぐ、支援が必要

人たちがベラルーシにいるというのに。

ベラルーシの様子と支援活動の全体がわかりやすく説明されていました。もっと、いろいろと生徒から質問がでるとよかったのですが。

二十日の津島さんの講義も聞きまし。医療活動の詳しい内容やベラルーシが官僚主義で支援活動がうまくいかないことなど大変さがわかりました。

ありがとうございます。たくさんの人々がまだ現地で生活していることに驚きました。

事故発生状況から、順を追って説明をしてください、わかりやすかったです。話も理路整然としていて上手でした。活動の内容もよくわかりました。

貴重なお話ありがとうございました。短い時間で活動の背景となるチェルノブイリでの原発事故からの説明は大変だったと思います。講師の先生の思いや経験がストレートに伝わる熱意ある話振りが生徒にとってよかったと思います。

(跡部先生)

(日永田先生)

(安武先生)

(常富先生)

# たくさんのお金を ありがとうございました。

日高太 譜久原由香 渋谷裕子 佐田亜由美 橋口日出夫 引田良子 藤本竜子 尾崎浩一 田川尚子 中野恵子 三浦孝士 江越知佳子 サトウ矯正歯科クリニック 内田怜子 高橋三工 川原英照・久美子 松里英男 鎌塚聰子 喜岡笙子 椋島一郎 嶋山恵子 石田敦子 深堀ミチ子 橋田順子 味村真知子 大久保良子 平山淳子 増田裕子 浜北香代子 豊田直也 米沢美佐子 めぐみ保育園職員一同 大谷早苗 井手美晴 伊藤千代乃 古賀尚子 山崎末吉 佐田園美 山口綾子 植村正子 野原初五郎 かどもと眼科医院 加登本紘 真鍋恵子 多田宏美 松永庸子 黒岩英子 力丸邦子 チェルノブイリへのかけはし十勝三木悦子 植村仁美 井手公平 英空寺 志和格子 佐藤久美 堀切レイ子 「きち工房」 菊池佳子 芦原純子 木村みさ子 川崎君子 西井田智枝 桜木秩子 浦中久美子 松尾由美 森下須美子 平島慎子 ルーテル佐賀教会附属佐賀幼稚園保護者会 益田晶子 山田政巳 満岡慶子 園久美子 金子ミヨカ 普久原涼太 大園広子 松本みね子 アイラン ドツアーセンター 村上裕子 桑原千鶴子 小楠小学校 大木正人 小糸一子 岩下悦子 山口郁代 宮本力ズ コ 原口悦子 北野薄 谷村牧子 森美香 守山美佐子 下坂千恵美 江越知佳子 高田孝子 佐々木信算 曾我正彦 曾根信寿・美恵 大谷正穂 野中孝子 上野三佳子 清水伸子 中村佳代 中村加代子 林田洋子 土持秀男・由利子 荒牧宏行 日本キリスト教団八幡鉄町教会 川端紀代 奥平篤子 測レディスクリニック 国際ソロプチミスト長崎 瀧邦子 前田・渡辺・中西・沖山 山下太吉 樺島尚子 渡辺真志子 福内康代 鳥原良子

星野千春・滋 桧垣光子 磯有子 大村敬子 古野竹則 石橋恵美子 井出崎優 上原康央 グループ・イーハトーヴ 田代いずみ 脇山和子 田嶋美奈子 沢村和世 高知土と生命を守る会 小田ゆかり 中西律恵子 三本和 グリーンコープ生活協同組合おおい 柳楽翼 渡辺みや子 太田明夫 松本弘子 前田晶子 筑豊互助会 河上雅夫 平泉悦子 内藤安子 堀田徹子 大工原千春 小林由美子 グループ・モモ 伏見台友の会 菊池順子 じゃがいものおうち 宮崎聖三一教会 JAにしみの不破地域訪問介護ステーション 阿羅こんしん 舞鶴幼稚園母 堀之内真吾 村上和代 英語教室 MOTO 坂本元嗣 照雲寺 日高章子 伊東眞司 はーと&はーと事業団 高丸正人 忠専寺 河野知曉 澤田和子 中津和幸 岩本久美子・洋子 広島医療生協組合員一同 くるつち整形外科クリニック (敬称略・順不同) (二〇〇二年九月一日より二〇〇三年一月三十一日までの募金です。通信にお名前を紹介することを許可頂いた方、ならびに「のぞみ21」民芸品、チェルノブイリ支援コーヒーの購入を通して活動を支援下さった方のみ、掲載しています。)

三千元コース 四〇一、〇〇〇円(二七七日)  
五千元コース 二二二、〇〇〇円(四二日)  
一万元コース 三三五、二〇〇円(三〇日)  
その他カンパ 二、三〇三、三〇九円(八四日)  
(分割払いの人もあるので、数字は割り切れていません)  
合計 三、二六一、五一九円

第2回プレスト市移動検診において  
株式会社カタログハウス「通販生活」読者からのカンパより、専門家派遣渡航費、および甲狀腺や糖尿病の医薬品・試薬代としまして、一、三三三、九五八円の支援募金をいただきました。  
○ 広島共立病院(代表 青木克明様)より、電子スコップを御寄贈いただきました。

## 募金者からのメッセージ

是非治療に役立てて下さい。少額ですがお役に立ちます様にと、送らせて頂いています。ベラルーシの子どもたちに元気をたくさんあげたい! 脱原発運動の一助になればと願っています。通信を楽しみにしています。また、バザーで集まったら送りますね。永い活動感謝します。私も同じ病気になるました。だから人事ではない気がします。お互い、がんばり合いたいです。がんばりましょう!! 人間のしたことは人間が責任をとらないといけないと思って... のod Luck 皆様の支援運動に頭が下がります。これからお患の永い支援頑張ってください。原発のいらぬ世の中に早くなりますように 少額ですが... 何かお手伝いをおもっています。微力ですが頑張ります 核兵器をつくるのも原発をつくるのも同じですね (民芸品) とてもステキなので嬉しいです。友人にプレセントで配ります。少額ですが、お役に立てれば幸いです。本当にほんの少しです。マトリョーシカきれいでした。いつもありがとうございます とても他人事とは思えません。子供達にも伝えなければ... こんなにうれしいコーヒーを飲んで支援だなんて、ごめんなさい。ありがとうございます。子どもが大変よろこんでいます。心ばかりですがお役にたてたら幸いです。未永い活動、未永い支援ができるようにがんばって下さい。寒さ厳しい中、頭が下がります。素敵なマトリョーシカですが、お送りします。幸せを祈っています。少しでもわいらしかったです!! ありがとうございます。